

鴨之越と浦島神社

木々に覆われた島によって海から遮られ、砂州に囲まれた静かな入り江である鴨之越は、浦島太郎伝説の発祥の地として知られています。浦島太郎は日本で広く親しまれている民話で、浜で子供たちにいじめられていた亀を救い、亀から感謝される漁師の話です。亀は自分を救ってくれた太郎という漁師を海底の宮殿へと連れて行き、そこで太郎は姫君と出会い、英雄のように歓迎を受けます。宮殿にて数日間過ごした後、太郎は家に帰らせてもらうようお願いしますが、姫は太郎を帰す前に、絶対に開けてはいけないという不思議な箱を彼に渡します。村に帰った太郎は何もかもが変わってしまったことに気づきます。それはまるで太郎が何十年にもわたって村を留守にしていたかのようにでした。太郎は姫の忠告を無視し、箱を開けてしまいます。すると太郎は白髪の老人へとたちまち姿を変えてしまうのでした。

地域の伝統によると、太郎が亀を見つけたのが鴨之越の浜だといわれています。入り江の反対側にある島の麓にある浦島神社では太郎本人を祀っており、神社の鳥居の門の近くには、親切な太郎の少し古びた銅像が立っています。潮が引いているときは歩いて神社まで行くことができ、エメラルドグリーン色をした波の中から現れた白い砂浜がきらきらと輝いているかのように見えます。ただし、潮が満ちて、道が再び海に沈んでしまう前に戻るように気を付けましょう。神社から岸へと戻ることができたら、夕暮れまで待ってみてはいかかでしょうか。入り江の反対側にある岩々が沈みゆく夕日を背景にドラマチックにその姿を現すのが見られます。